

## 第 435 回集談会

- 1.日時:2012 年 7 月 17 日 (火) 16:30~
- 2.場所:2A 講義棟 (中央棟 2 階)
- 3.座長:生薬学教室 助教 村田敏拓先生(内線 4605)
- 4.演者:天然物化学教室 助手 山崎寛之先生(内線 4603)
- 5.演題:微生物が生産する二次代謝産物に関する研究
- 6.要旨:Fleming によるペニシリンの発見に端を発し、20 世紀は抗生物質を中心とする生物活性物質の時代であり、微生物は重要な創薬資源であると考えられてきた。また近年では、構造的にも活性的にも多様性に富んだ天然化合物は、創薬や生命現象の解明を目指したケミカルバイオロジー研究分野において、非常に有用なツールになることから、その重要性が再認識されている。このような背景を考えるとこれまで以上に、微生物資源からの新規化合物の発見・提供は重要な研究テーマである。

そこで演者は、真菌を中心とした微生物資源を対象に感染症および脂質代謝領域に有効と考えられる評価系を用いて新規有用物質の探索を行ってきた。本会では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) に対する $\beta$ -ラクタム薬活性増強物質として、真菌 *Aspergillus* sp. FKI-2136 株より見出した新規化合物 stemphone 類について報告する。